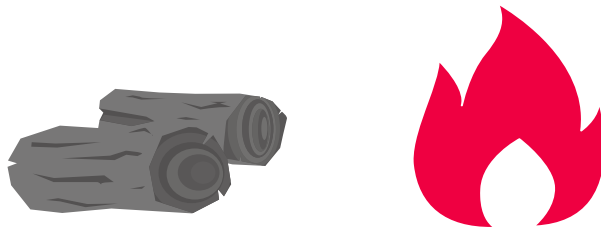


09

バーベキューの炭がはじけ飛んでやけどした

もうすぐ夏休み、家族や友人と海や山に出かけてキャンプやバーベキューを楽しむ人が増える季節ですが、その際に燃料として使われる炭に関して、「バーナーを使って炭に着火した際、はじけ飛んだ炭でやけどを負った」という相談が当センターに寄せられました。

炭は、木を蒸し焼きにすることによって硫黄やタール等の不純物が取り除かれているため、生木に比べて、燃えたときに発生する煙やガスが少なく、火力が長時間安定しているため、調理用の燃料として適しています。しかし炭で火をおこす際、「爆跳^{ぼくちよう}」^{ぼくちよう}といって、炭が激しくはじけ跳ぶことがあります。これは炭の中の空気や水蒸気が加熱されて膨張^{ぼうちよう}し、行き場を失って一気に炭を押し割ってしまうためです。炭に火をつけたり、炭をつぎ足したりするときは、急激な温度上昇を避けるために、種火から徐々に火を移すようにして、強く燃えている炎が直接に接触しないように注意しましょう。特に、早く火をつけようとしてバーナーなどを使うと、爆跳の可能性が高くなるほか、顔や手が炭に近づきすぎるため、爆跳したときに危険です。また濡れたり湿気を含んだりした炭も爆跳しやすいため、よく乾かしてから使用しましょう。



慣れない人にとってはなかなか難しい火おこしですが、炭に手早く火をつけるための着火剤も市販されており、なかでもゼリー状の製品が最も多く使用されています。この着火剤の主成分であるメタノールは、引火性で、蒸発しやすい上に、その蒸気は空気とほぼ同じ重さなので、空気中に広がって爆発性の混合ガスをつくりやすい性質があります。キャップを開けた状態で放置しないようにして、しぼり出した後は蒸発しないうちに

速やかに点火しましょう。使いかけの着火剤は、容器内に空気が入ることにより、爆発性の混合ガスがたまって大変危険なため、開封後は一度で使い切るようにしてください。またメタノールは炎が青いので、屋外など明るい場所においては、実際には火がついているにもかかわらず火が消えているように見えることがあります。着火剤を火の上からかけると、熱で気化した着火剤に引火したり、着火剤容器内部で爆発したりする危険性があります。つぎ足しは絶対にやめましょう。

さらに火がついてからも、着火した直後は炭や着火剤が飛び散る恐れがあります。火が安定するまではむやみに近づいたり覗き込んだりしないように、特に小さな子供には十分注意してください。また、換気のできない場所で火をたくと、酸素が不足して不完全燃焼となり、一酸化炭素中毒を起こす危険性があります。テント内などの閉めきった場所では絶対に火を使わないでください。

人間は地球上で唯一火を使う動物とされています。火の使用によって人類の生活は大きく変化しましたが、火の力を^{あなど}侮ると手痛いしっぺ返しを受けかねません。消火用水、メンバー間での危険箇所のチェックなど、抜かりなく準備した上で、安全にレジャーを楽しんでください。もちろん、火の後始末、ゴミの後始末もお忘れなく……。

(平成14年7月発行)

